

# 聴覚障害者の避難円滑に

## 岡山 災害ボランティア研修会



聴覚障害者の避難支援をテーマに行われた研修会

は心理的負担により、介助や車いす利用が平常時よりも増えた」と報告した。

同地区では「自力で避難できる」「自宅は安全」といった過信により避難行動が遅れてしまった人もいたと説明。一方で、近所の若者の声かけにより早めに避難できた当事者もいたとして「個別避難計画を作り、近隣住人など複数の支援者を決めておくことが大切」と呼びかけた。

手話通訳者石原昌子さん(61)＝岡山市東区古都南方＝は「日頃からさまざまな選択肢を想定して災害に備えようと思った」と話した。

聴覚に障害がある人らの避難支援をテーマにした災害ボランティア研修会(岡山県聴

覚障害者センター)主催

の佐藤ゆかり准教授が

24日、岡山市北区

のきらめきプラザであった。201

8年の西日本豪雨で被災した総社市下原地区

の対応事例を通じて、

取ったといい「災害時

(C) 山陽新聞社 無断複製・転載を禁じます。